

南米チリ平和巡礼行脚 サンチャゴへの道

南無妙法蓮華経 2017年10月19日記

本年1月御師匠様第33回忌参詣の際のロンドンー日本の往復便の機内誌の表紙はチリ富士霊峰オソルノ山でした。「サルボダヤ」2・3月号に拝した酒迎御上人様の消息に、日出生台でビクトル・ハラ「平和に生きる権利」が日本語で歌われると拝し、意を決し、9月チリ行きの切符を購入した。1986年ロンドン道場に入らせて頂いて間も無い頃、仏舎利塔に御給仕して頂いて最初に御会いし、御縁が続いているモニカさんに連絡して一切を御世話に成った。

9月17日朝サンチャゴ空港に着きモニカさん達に迎えて頂いた。20日サンチャゴの人権博物館に案内頂き、ビクトル・ハラ「ジョーン夫人と令嬢のアマンダさん、ビクトル・ハラ・ファウンデーションの方々」に御迎え頂いた。ジョーンさんがビクトル・ハラ「復刻盤 LP「平和に生きる権利」」をプレゼントして下さいました。博物館館長が迎えて下さり先ず地下の別館に成っている、チリの著名な現代美術アーティストのアルフレッド・ジャー（1956- ）のインスタレーションを見、それから本館に案内頂いた。ジョーンさんは90歳だが行脚に参加出来ないとエレベーターを使われず、館内を全部歩いて一緒に巡られた。合掌礼拝すると、杖を脇に抱え合掌して、こちらよりも深く礼拝される。館にはピノチェト軍事独裁政権時代の恐ろしい爪痕が展示されている。

ガンディー翁は南アで1906年9月11日にサチャグラハ運動を発足された。チリでは1973年9月11日にピノチェトのクーデターが勃発し、同日ビクトル・ハラも捕らえられ激しい拷問の果てに9月16日に惨殺された。多くの人々が非暴力に徹して屍を重ねられた。9月28日はビクトル・ハラの85歳の誕生日。9月はチリの人権月間と成っており今年のテーマは「平和に生きる権利」。9月11日はピノチェト時代「国民開放の日」と呼ぶ祝祭日だったが廃止された。

チリの詩人パブロ・ネルーダ（1904-1973）はチリ南部の生まれで回想録「我が生涯の告白」を「・・・連なる火山の麓、氷河に程近く、いくつもの広大な湖の間で、芳しく、静けさを湛え、絡み合う、チリの森よ・・・」と南部の大自然の描写から始めている。

9月21日、南部のプエルト・モンヘモニカさんと飛び、22日、パンパ・イリゴインで御祈念の後、平和巡礼行脚を発足した。1969年、困窮した無土地農民の家族91人が、パンパ・イリゴインの荒地に入植し、それを察知した地主が激怒、250人の武装警官が夜襲銃撃し、多くの死傷者を出した。ビクトル・ハラが此の虐殺事件を歌に歌って告発、世間の知る所と成り、ビクトル・ハラは命を狙われる事に成った。プエルト・モン市が発展し、今では住宅地と成りパンパ・イリゴインの地名すら残っていない。虐殺の地で、関係者の幾人かが集まって下さり御祈念していたら中から女性2人出て来られ門の鍵を開け全員敷地内に招いて下さり、敷地内で御祈念させて頂いた。事件跡地は幼稚園に成っていて他の方々は敷地内で待たれモニカさんと2人で幼稚園の建物の中に招いて頂いた。女性と

子供達だけでも生き延びて欲しいと願って倒れた人の画いた夢が、そこに其の儘あった。子供達は大喜び。出発すると窓から子供達の顔が覗き、みんなで手を振って見送ってくれる。「雨雨降るな！！お坊ちゃん頑張れ！！！」と叫んでくれてるのかな。集まって下さった方々が、宗教者が此の地に来て祈られるのは始めてで、何という力強い祈りと喜ばれた。夕刻、昨晚も御世話に成ったプエルト・バラスのカサ・ラダツに到着した。23日、チリ最大のジャンキウエ湖に沿ってロス・リスコス、24日エンセナーダと行脚、25日、ラテン・アメリカ最古、25万ヘクタールの広大なビセンテ・ペレス・ロサレス国立公園のペトロウエの滝に到着。そこからチリ富士霊峰オソルノ山を拝し御祈念した。誠に絶景である。こんな美しい光景は見た事が無い。百種類以上の野鳥の生息する野鳥の宝庫でもある。21日、22日と泊めて頂いたカサ・ラダツのリカルド氏はオルガさんの友人で、家具デザイナーであり、海外に仕事に出ておられる事が多い様だ。23日、24日、25日とロス・リスコスのリカルド氏の友人の家族の所に泊めて頂いた。旦那さんは養蜂業、奥さんは画家である。ジョン・ラスキンが晩年住まれた英国湖水地方コニストンのブラントウッド邸が丘の上にあって前はコニストン湖、対岸には冬冠雪するオールドマン山が望まれる様に、此の家からの眺望も前にジャンキウエ湖、対岸にオソルノ山が聳え素晴らしい所なので、是非仏舎利塔を建立して下さいと言ったら、正方形で5000平方メートルの土地が安く購入出来る。どの名義に供養登記すれば良いか。どの様な御姿の仏舎利塔かと真剣で具体的な話に成り慌てた。

仏舎利塔は建立したい。大きいのは無理だ。大岡先生の遺作牛深仏舎利塔の意匠設計は多宝塔形式で、基壇が日本の多宝塔

の様に低いが、これをロンドン仏舎利塔の第2基壇より高くし、ロンドンの様に円形の第1基壇・回廊を設け第1基壇への階段は四門三匝に因んで4つ、雨天でも仏舎利塔前で法要出来る施設を整え常唱題の道場仏殿を建立する。取らぬ狸の皮算用で頭に火が付き眠れなくなった。南部はサンチャゴより10度程気温が低く、4日間雨の天気予報だったが雨に降られず有難かった。

27日、午前3時サンチャゴ郊外、アンデスの麓のモニカさんの家に帰着。午後、ピノチェト軍事独裁政権時代のアウシュビッツ、ヴィラ・ギルマルディへ案内して頂いた。証拠隠滅で爆破されたのか跡形も無いが博物館と成り人権運動を行っている様である。ビクトル・ハラ・ファウンダーションの方々、明日行くロンケンのメモリアルの代表の方々、遺族の方々他一般参加の方々集まれ、館長さんの説明・案内で巡った。行方不明に成った人達の多くも此処に連行され拷問の果て惨殺された。ブラック・エルクは「死者の骨には力がある」と語ったが死体袋に遺体と共に線路のH形鋼を身の丈より長く切って入れヘリコプターで秘密裏に外洋に投棄していた。その中の一体が年を経て海岸に打ち上げられ身元も判明、どの様に死体を遺棄していたかが暴露された。モニカさんの父は此処に収監されていた事があったのか恐ろしくて近付く事も出来ぬ場所だった様である。集まれた方々は撃鼓宣令に深く感銘された。28日、午前6時モニカさんの家から車で一同出発。途中フェルナンド氏の車が合流しサンチャゴ市内で終日無料で路上駐車出来る所に車を止め、地下鉄とバスでビクトル・ハラの生まれたロンケンの、教会前のプラザに9時集合。地元の方々が準備下さった貸切バスで全員メモリアルの場所へ移動。軍事独裁政権時

代の恐ろしい事実が暴露される発端と成った場所があり、遺族の方々も集まれ追悼の集会が行われ御祈念させて頂いた。集会后、アマダ・ハラさん、ビクトル・ハラ・ファウンデーションの方々他と共に未舗装の古い土の道から発足。午後2時までビクトル・ハラ・ファウンデーションの方々一緒に歩いて下さり車でサンチャゴに向かわれた。其の儘歩き続け遅い昼食を道路脇で食べた後、皆路線バスでサンチャゴに向かい終点下車し、ビクトル・ハラ達が軍に包囲され一網打尽に捕らえられたサンチャゴ大学へ。此の大学で日本文化・日本語を学ぶ女学生が参加していて、大学内で友人の女学生2人が合流。昨日27日の日本・チリ国交樹立120周年の祝典の為、訪チリされている秋篠宮御夫妻がサンチャゴ大学を訪れられ今御話させて頂いたばかりと興奮して話してくれた。大学から行脚し6時45分ビクトル・ハラ・スタジアムへ到着し、ジョーン夫人、アマダさん、ビクトル・ハラ・ファウンデーションの方々に迎えて頂いた。今晚、此のスタジアムでビクトル・ハラ85歳の誕生日を記念するコンサートが行われる。ビクトル・ハラが拷問の果て殺されたと思われる部屋は4号室で鍵が掛かっていたが、扉に触れ御題目を三唱させて頂いた。アマダさんはジョーンさんが「パパは死んだ」と洩らされたのを聞き悲鳴を上げた幼かった頃の事が蘇るのか泣いてしまわれた。地下の控室で今晚演奏されるバンド「イリャプー」のメンバーに紹介され御祈念させて頂き一緒に写真を撮って頂いた。イリャプーはケチュア語で雷光の意でチリ北部で1971年に結成されクーデターの後国外追放されたが活動を続け遂にチリに戻った。皆一般席より前の特別席に招いて下さり、ジョーンさんの隣に座らせて頂いた。司会が始めに此の行脚を紹介下さると観衆は皆立ち上がって雷鳴が轟く如くに拍手して下さった。

チリ行き切符を購入し、モニカさんにチリ行脚の誓願を伝えた。モニカさんはビクトル・ハラ・ファウンデーションを訪ね、此の行脚の事をディレクターのクリスチャン氏に話された。クリスチャン氏は随喜されファウンデーションが全面的に協力下さる事に成りメディアも注目し、沢山の方々が参加下さる意義深いものとなった。ジョーンさんはロンドン生まれでお母さんはフェナー・ブロックウェイ卿（1888-1988）の秘書をされていた事がある。インド独立時の英外相クエーカーのフェナー・ブロックウェイ卿は御師匠様と御親交があられ、ロンドン仏舎利塔建立の賛同人でもあられ、ジョーンさんは此の行脚をととても喜んで下さった。

イリャプーの演奏の背後の大スクリーンの映像からチリの人権運動は弾圧されているチリの先住民マプチェ族の支援に力が注がれている様である。マプチェはマプチェ語で「大地に生きる人々」の意で、自然を畏敬し、信仰深く生きる人々の様だ。モニカさんの友人のマプチェ族の女性が1人、モニカさんの小さな御太鼓を撃って一緒に歩かれた。

1991年頃インドの法要に参詣した時、デリーで見付けて求めたネパールで制作されたと思われる御誕生佛をアンデスに祀って頂こうと思いモニカさんに送ったが今も大切に祀って下さっていて嬉しかった。年々送る年賀の御題目も額に入れ、其処此処に飾って下さっていた。29日ビクトル・ハラの本墓に参詣。10月1日帰英帰山。酒迎御上人様から賜った米寿紀年の御太鼓を撃って行ったが、ラテン・アメリカに轟かせて頂こうと思いモニカさんに供養させて頂いた。

此の行脚実現の為に御力添え下さった方々に深く感謝申し上げます。誠に有難う御座居ました。

合掌 日本山妙法寺 倫敦道場 永瀬行朗